

# 2023年度経済同友会インターンシップを実施

経済同友会インターンシップ推進協会が主催する、2023年度経済同友会インターンシップが8月から9月にかけて実施された。正会員企業数の増加に伴い、本年は昨年より27人多い179人の学生が参加、実社会での就業体験から多くの学びや気づきを得た。また、今年度より新たにADEKA、オイシックス・ラ・大地、シグマクシス、日本航空、日本たばこ産業、日本レジストリサービス、リコーの7社が学生を受け入れ、実施企業は28社に上った。ここでは2019年に入会以来3回目を実施したケマーズと、前述7社のうちADEKA、リコー、日本航空の事例を紹介する。



客室乗務員の訓練体験の様子(日本航空) ©shiraiwa

## ケマーズ

グループ会社の三井・ケマーズ フロロプロダクツと合同で実施。

- 実習期間 8月21日(月)～9月1日(金)の10日間
- 実習場所 本社(東京都港区)、清水工場(静岡県静岡市)
- 参加学生 5人(北海道大学、東北大学、新潟大学、山口東京理科大学、龍谷大学)

### ■プログラム

- ・ケマーズの事業戦略
- ・理系、文系学生のキャリアを考える
- ・これからの社会におけるフッ素の役割を考える

### ■企業担当者の声

学生はComfort zoneを抜け出し、学ぶことに意欲的だった。礼儀正しく、社員や協力いただいた他社の方に対しても、誠実にやり取りをしていた。学生同士が良いチームを築き、共に成長し合えた10日間となった。企業側の社員にとっても多くの学びを得る機会となった。

### ■参加学生の声

○研究開発だけでなく、営業やマーケティング・SDGs・物流・キャリア設計など、大学の授業では学べない実践的なプログラムで、想像以上だった。大学も専攻も異なる仲間がしっかりと目的意識を持って積極的に学ぼうとしている様子に刺激され、私自身もモチベーションを維持することができた。



工場見学で真剣に製品説明を受け 最終日に実習の成果を発表する実習生たち



- 製造のプロセス開発が印象的だった。少ない情報から何をすべきかを素早く理解する力や、各自が理解したことを共有する力、制限時間を意識して成果を出す力が鍛えられた。業務に必要な理解力と協働力のレベルとスピード感を知ることができ、今後の参考になった。
- 最も印象に残っているのはCEOとのセッションです。インターン生の立場でCEOとお話することができるという風通しの良さに衝撃を受け、英語力をもっと磨いて深い話がしたいと思うきっかけになりました。
- 質問をすると、2倍3倍にまで広げて答えていただき、本当に多くのことを学ぶことができた。質問が理解のためにいかに必要なのか気付くことができた。
- 事前学習で企業の調べ方を教えていたおかげで、ある程度の基礎知識を付けて実習に臨むことができた。実習内容はかなり本格的な部分もあり、事前学習が非常に生きたと実感している。また、事前に目標や目的を立てたことで、非常に効果的な実習を送ることができた。

## ADEKA

鹿島工場徹底した安全管理の下、5日間のプログラムを実施。

- 実習期間 8月21日(月)～8月25日(金)の5日間
- 実習場所 鹿島工場(茨城県神栖市)

- 参加学生 6人(北海道大学、東北大学、高知工科大学、山口東京理科大学、工学院大学、東洋大学)

### ■プログラム

- ・化学品技術課・食品技術課の仕事を知る
- ・ラボ品、実機品の違いを知る
- ・油種による物性差異を知る

## ■企業担当者の声

学生はととても意欲的に取り組み、成果発表も満足のいくレベルであった。メーカーの生産活動に対する学生の理解も得られたと考えている。

## ■参加学生の声

- 学内では見られない工業規模の機械に実際に触れ、これまで学んできたことの意味を視覚的に理解できた。また、他の大学の人との交流を通じて、今後の学修や大学院進学など、自身の将来について考えることができた。
- 最も印象に残った実習プログラムは化学品の蒸留。蒸留をラボレベルで行い、分析し、純度が高くなっていることを数値で実際に確認できた。その他の製造工程も体験することができ、感動した。



指導には、多くの社員が参加



実習最終日、全員で成果発表

- 想像していた以上に今、勉強をしている内容が企業でも活かされていることが分かった。インターンシップに参加することで、企業や業界に関する知識だけでなく、人脈や質問力、発表スキルなど期待以上のものを得ることができた。
- 質疑応答の時間を多く取っていただき、現場で働く社員の方と話すことで、大学院進学か学部卒かの意思決定をかなり固めることができた。

## リコー

大学生向けプログラムと高専生向けプログラムを用意し、一人ひとりに合わせた手厚いインターンシップ実習を展開。

■実習期間 ①8月28日(月)～9月7日(木)の10日間

②8月28日(月)～9月1日(金)の5日間

■実習場所 ①リコー本社(東京都大田区)、市村自然塾(神奈川県足柄上郡)

②沼津事業所(静岡県沼津市)

■参加学生 2人(上智大学、東京工業高等専門学校)

## ■プログラム

- ・大学生対象：社会貢献プログラムの体験および「若者向けデジタル支援プログラム」の改善提案
- ・高専生対象：「1日1度は出会ってる！感熱紙技術を知るプログラム」の体験・実習

## ■企業担当者の声

- 両プログラム共に、意欲のある学生を派遣いただいた。
- 学生は真摯で前向きな姿勢でプログラムに取り組んでいた。率直に質問し、臆することなく自身の意見を伝えることができていた。
- 若い方の新しい考えを知ることができ、職場の活性化に

もつながった。派遣元の大学・高専とのつながりができたことにも満足している。

## ■参加学生の声

- オフィスでのデスクワークやリモートワーク、ボランティア活動などさまざまな活動に参加し、大学では学べない多くのことを学んだ。社員の方々にいろいろなお話を聞かせていただき、働く意義や楽しさについて学ぶことができた。
- 大半の業務で、コミュニケーションが必要となることが新たな発見だった。チャットや会議で何度も情報共有を行い、チームとして仕事を進めることが重要であることを学んだ。
- 最も印象に残ったプログラムは社内報告会。社会貢献活動の提案をしたが、これを通して働くことの責任を実感し、社会人になるための心構えを学んだ。
- 他の学生に伝えたいことは働き方が変化しているということ。学生は将来働く上で自分に合った働き方を考える必要があると思った。



市村自然塾の活動に参加、社会貢献活動を体験

・コンピテンシーとキャリアについて考える

## ■企業担当者の声

- キャリアを意識し始めたばかりの大学1～2年の参加によって、企業側もあらためて「働くとは何か」「職種の魅力」について、捉える機会となった。Well-beingを高める取り組みをしている中、実習生と共に考えていくことで組織の活性化に向けたヒントを得た。
- 弊社はESG戦略の下、地方活性化にも取り組んでいるが、今回は「地域課題の解決」などを専攻している学生も多く、グループワークが活発に行われた。人選した大学にも感謝している。
- 学生の「早期のキャリア意識の醸成」に関与し、担当者自身が喜びややりがいを感じた。

## 日本航空

航空業界や飛行機のオペレーションについて理解を深め、客室乗務員の訓練体験も行いながら、グループワークを通じてキャリアを考える機会を提供。

■実習期間 9月4日(月)～9月8日(金)の5日間

■実習場所 本社(東京都品川区)、羽田空港オペレーションセンター(東京都大田区)他

■参加学生 6人(小樽商科大学、九州大学、琉球大学、岩手県立大学、龍谷大学、京都橘大学)

## ■プログラム

- ・航空業界・客室乗務職を知る
- ・地方から世界へ/世界から地方へ

## ■参加学生の声

- 客室乗務職はじめさまざまな部署の方からお話を伺い、飛行機を飛ばすために多くの職種の支えがあることを実感した。
- チームで一つの目標に向かって努力する力が成長した。限られた時間の中、グループで意見を出し合い、プレゼン発表が成功したときにはとても大きな達成感を得ることができた。

## ◆その他の企業担当者の声

- 若手社員が未経験者を一から指導・教育する場を作ることができ、自社にとっても良い機会になった。
- 今後も好奇心と学習意欲が高く、前向きな学生の参加に期待したい。
- 参加の目的が明確に定められており、学ぶ姿勢が整えられていた。
- 知識習得に意欲的な学生が多く、コンテンツを用意する側として多くの学びを得た。
- 「自分から発信しないと個の活動にとどまる。それが学生と社会人の違いだと分かった」とコメントしていたことが強く印象に残った。

## ◆その他の参加学生の声

- 企業、自分、キャリアの全てにおいて、詳細に理解する機会をいただき、働くことの意義を身に染みて感じた。自分の成長にもつなげることができ、人生を歩む上で重要なものとなった。
- 普段かかわり合えない仲間と頭を抱えて考える経験ができた。ビジネスの思考法を基に現象を捉えることは初めてで、うまくいかないことに葛藤を覚えたが、役員や社員の方から直接フィードバックをいただき、何度も話し合いをしたことで、考え方が成長したことを実感した。

- 大学1～2年生の時期にインターンシップを行うと、その後の学校生活や将来への考え方が必ず変わる。絶対参加するべき。
- 新規事業提案ではロジカルな考え方についてコンサルの実践を踏まえながら体験し、実際に働く姿を想像することができた。
- 非常に貴重な機会だと思った。でも参加するだけでは意味がなく、主体性を持ってどんどん意見を発信していかなければならないとも感じた。

## 2023年度経済同友会インターンシップ実施概要

**参加企業(正会員28社):** ADEKA イオン オイシックス・ラ・大地 キックコマン キッツ 久慈設計 ケマーズ コニカミノルタ 小松製作所 シグマクシス 住友林業 双日 第一生命保険 武田薬品工業 デュポンジャパン TOPPANホールディングス 日本航空 日本信号 日本たばこ産業 日本レジストリサービス 野村ホールディングス 東日本旅客鉄道 みずほ証券 三井住友銀行 三井不動産 森トラスト ユー・エム・アイ リコー

**参加大学等(正会員19校):** 小樽商科大学 北海道大学 東北大学 新潟大学 埼玉大学 お茶の水女子大学 九州大学 琉球大学 岩手県立大学 山陽小野田市立山口東京理科大学 高知工科大学 工学院大学 上智大学 昭和女子大学 聖心女子大学 東洋大学 龍谷大学 京都橘大学 国立高等専門学校機構

**参加学生:** 正会員大学1・2年生、国立高等専門学校本科4年・専攻科1年 合計179人

**開催期間:** 2023年8月16日～9月15日。当期間中に、各会員企業が5日間～1カ月間のインターンシップ実習を実施

## 経済同友会インターンシップとは

経済同友会インターンシップは、2014年度教育改革委員会の提言「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」を具現化するために設立された一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会が、正会員企業と大学などの学生のマッチングを行い、産学連携教育の望ましいあり方を追求、推進するインターンシップです。

### ◎経済同友会インターンシップの特徴

- ①対象は大学1・2年生/高専本科4年生・専攻科1年生  
学生が早い時期から実社会で学び、気付きを得る機会をつくることでキャリア意識を涵養し、以後の学修やキャリア形成に活かします。

### ②単位認定を行い、正課教育の一環として位置付け

大学・高専では、教員がプログラム内容に関与する正課授業として位置付けられ、意欲ある学生を選抜して実習先へ派遣します。実習生への事前・事後学修を含めた教育指導により学生の成長を促します。

### ③実習期間は2週間以上

十分なインターンシップ体験のために、おおむね2週間以上の実習期間を確保しています。

### ④日本を代表する有力企業を中心に学生を受け入れ、交通費・宿泊費を支給

大きな舞台を経験することで、学びの効果を高めめます。また、実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業が負担します。